

むらの底力 江戸木版画職人（商家：本・瓦版の店）

版木の彫り （はんぎのほり）

浮世絵版画では、彫師と摺師が重要な役目を持ちます。彫師は、版木（はんぎ）を起こす職人であり、顔料を乗せたい箇所を彫り残し、不要な部分は鑿（のみ）で削り取ります。多色刷りの場合は、版木の端に「見当（けんとう）」と呼ばれる目印を2か所彫り残し、紙がずれないようにしておきます。



石井 寅男氏（埼玉県）

中学卒業後、彫師の久我傳吉氏に師事して修業したのち、独立した。後継者の育成と木版画の普及に努めている。



版木



版木の彫りの実演